北から南から

防災を地域の文化に
～いざという時の為に、体験した事は忘れない！～

青森県青森市　原別地域まちづくりを進める会
会長　大坂　美保

1 はじめに

青森市立東中学校区を含む「原別地域」は、陸奥湾と八甲田山に囲まれた青森市東部に位置しています。平成17年より東中学校学区内の小学校では毎年防災キャンプが行われており、地域においても町会単位による自主防災組織が設立され、年１回の防災訓練の実施等、地域自主防災へ取組む環境が整ってきました。

平成24年に地域のまちづくり協議会「原別地域まちづくりを進める会」が組織されたのを機に、地域で育つ中学生と連携して、防災を考えながら地域社会が地域を守るための取組みが始まり、平成26年からの８年間、東中学校を拠点に男女共同参画の視点を取り入れた避難所運営訓練を実施しています。

防災教育

2 避難所運営訓練の目的

自主防災組織には、東中学校ＰＴＡ、民生委員、防災士、消防団、警察官、赤十字救急法指導員、東中おやじの会等、地域に住む様々な人的資源の存在が災害時の避難所運営の中心的な役割を担うことから、地域に住む皆さんと共に運営委員会を設立しました。地域と防災拠点である学校とが連携して防災教育に取組むことで、地域の世代間交流の場にもなりそれが地域コミュニティの強化につながり、体験の繰り返しと継続による防災体験が地域の文化になると感じています。

「災害時、誰ひとり取り残さない避難所運営」を地域の最終目標にしながら継続した活動が評価を受け、「ぼうさい甲子園」において2018年「フロンティア賞」2020年・2021年「しなやかwithコロナ賞」を受賞しました。

3 地域と共に学ぶ防災力 UP の内容

訓練では参加者全員が「総務・情報班」「施設管理班」「要配慮者・衛生班」「炊き出し班」に分かれ避難所を設営します。避難

所には「要配慮者スペース」「赤ちゃん・コミュニティルーム」「居住スペース」を設置して災害時の疑似体験をし、「感染症対応非常持ち出し袋」「災害用トイレ」「ゴミ袋を利用した防護服」等を手に取りながら説明を受けることにより理解につなげています。

また、中学生は「災害から命を守る～中学生に出来る事」「阪神・淡路以降に進む防災教育」「東日本大震災での教訓」などシュミレーションゲームによる防災教育プログラムを受講。生徒が「考える力」「判断する力」「生き抜く力」を習得するとともに、自らが「誰が見ても分かりやすい避難所を作りたい」という思いで、避難所運営に必要なサインを「ピクトグラム」として制作展示しています。

特にワークショップやワールドカフェによる「避難所について考えよう」「避難して来る人の気持ち」「避難所でのルール」「避難所のトイレをどうする」等、テーマごとに対話の中で多角的な視点で学び、「自分の命は自分が守る」「自分が助からなければ人を助ける事が出来ない」「中学生でも出来る事がある」「自分たちの地域は自分で守る」という自助・共助による地域防災は、中学生も地域住民も災害直後の避難、避難所の開設とその後の運営、災害時のタイムラインとともに、その重要性と要配慮を含む多様な対応、特に男女共同参画の視点の必要性を学びます。

ダンボールベット製作

ドクターヘリ

さらに災害関連死を課題に、せっかく助かった命、助けられた命、何も無ければもっと生き続けた命を考え、「学校と地域が一体になって取り組む避難所運営訓練」は、「いざという時のために体験した事は決して忘れないプログラム」として、安心安全なまちづくりへ繋がっています。

平成30年には全国で初めて、青森県ドクターヘリと医療機関及び消防機関との合同訓練を実施、令和元年には災害時の周囲の状況や被害の規模を正確に映像で把握できる「ドローン」を活用、訓練内容を撮影し映し出すことで防災時の救命救助行動をリアルタイムに確認することができました。特にドクターヘリの校庭離着陸は、見ていた生徒や学区内の小学校児童へ強い印象を与えたようで、「ドクターヘリに乗れる医師に成りたい」と卒業文集に載せた児童もいて、将来の職業を考えるキャリア教育にもなりました。

ＳＤＧｓの目標である「ジェンダー平等を実現しよう」「住み続けられるまちづくりを」「平和と公正を全ての人に」を掲げ、歴代の女性リーダーとともに災害時には「誰ひとり取り残さない」という理念をもって防災による人と地域の繋がりを学んでいます。

4 防災を地域の文化にするために

学校と地域がともに取り組む防災は、地域で育つ子どもたちの豊かな成長を支え、「地域とともにある学校づくり」を進める「コミュニティスクール」の強い基盤と成っています。

新型コロナウイルス感染症拡大により多くの制限を受けていますが、災害時誰ひとり取り残さない避難所運営が地域の最終的な目標となり、文化として定着するようにこれからも命を守る活動を継続的に進めます。

一つを知れば一つの行動につながり、そして行動により自分の命や大切な人の命を救う事も可能です。地域住民の皆さんが正しい防災知識を学び、顔と顔がわかる関係性を築きながら防災に強いまちづくりを進めていきます。